

新聞から広がる防災の輪

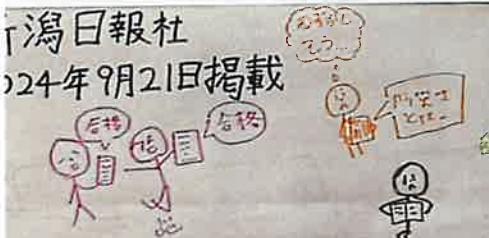
防災士は小学4年生



県内最年少

能登地震を契機「同年代目線で考えたい」

新潟日報社
2024年9月21日掲載



新聞を見た市外の施設職員さんから連絡があり、親子向けの防災イベントを実施しました。イベントでは、日頃から災害に備える大切さを伝えるために、私がいつも持ち歩いています。ポーチの中身を見たりしました。こちを

ホスターを作ってみて

私は能登半島地震が起きた時、自宅の二階にいました。大きな揺れで、棚から物が落ちてきてパニックになりました。も、二つ字が出てきました。しかし、母と一緒に防災士の勉強をしたのですが、防災士の試験勉強はとても難しくて、覚えるのが大変でした。特に知らないうまく漢字が出てきたときや、「法律」という言葉の問題が難しかったです。基本的に家で勉強する時間が多かったのですが、モチベーションを上げるために、時々母と一緒に法エヌで美味しい飲み物を楽しむための講義を、二

日間受けた後に試験がありました。講義内容は、AEDや心臓マッサージの実践、能登半島地震に備えての話など興味深い内容だったのです。母と問題の振り返りをしてから帰りました。親子とも合格通知が届いた時は、母も私もホッとした気持ちでした。



2024年12月29日新潟市
発災前から持っておくポーチについて説明する様子

う一度やりたいと思いました。今年は同じ施設の他に、町内会の防災イベントで〇次の備えについて話します。このように新聞記事がきっかけになつて、色々な人と繋がることができました。これからもこの防災の輪を大切に楽しく広げていこうと思います。

防災士になってから

私が新潟県で最も年少の防災士だと聞いて、防災士の資格をとることにしました。新潟日報に載った二年生の防災士の様子もアツアツされました。仙台の反響は大きくなり、テレビや新聞にも取り上げて仙台でもアツアツされました。

日報に載った二年生の防災士の様子もアツアツされました。仙台の反響は大きくなり、テレビや新聞にも取り上げて仙台でもアツアツされました。それから、テレビや新聞に住む小学生防災士の人とも知り合うことができました。テレビで出演し、お話をしました。

認証状

大竹 葵殿

あなたは、日本防災士機構が認めた、防災士認定基準に適合しているものと認定致しました。
よって、防災士として認め致しました。

日本防災士機構
大羽毛田信吾
2024年1月1日
大竹 葵